

対人援助学 & 心理学の縦横無尽

(20)

TEA(複線径路等至性アプローチ)、世界を駆ける(4)

2016年7月横浜 ICP、9月ポーランド、10月イタリア、11月ノルウェー

サトウタツヤ (総合心理学部)

1 前口上

TEA (複線径路等至性アプローチ)、世界を駆けるというシリーズはこれまで3回、不定期に発表させてもらってきた。

「世界を駆ける(1)」は2012年のイタリア、ブラジルであった。「世界を駆ける(2)」は、2013年の活動報告でイタリア、デンマーク、イギリスでの活動であった。「世界を駆ける(3)」は、ブラジル、デンマーク、オランダ・デンマークでの活動であった。いずれも主題は TEA (複線径路等至性アプローチ) である。

複線径路等至性アプローチとは、システム論に基づく質的研究法の一つである。おかげさまで国内外から関心をもってもらうことができおり、本誌でも既に3回関連した活動記録を掲載させてもらっているのご参照いただきたい。

2012年1月イタリア、3月ブラジル

<http://www.humanservices.jp/magazine/vol8/16.pdf>

2013年3月イタリア、デンマーク、5月イギリス

<http://www.humanservices.jp/magazine/vol13/17.pdf>

2014年3月ブラジル、4月デンマーク、8月オランダ、デンマーク

<http://humanservices.jp/magazine/vol18/17.pdf>

2015年度はなぜきちんとした活動ができていなかったのか、ということについては個人的にも内心では忸怩(じくじ)たる思いがある。しかし、それは置いておいて、2016年度の活動をまとめておきたい。

2 2016年7月横浜 ICP

2016年7月24-29日、パシフィコ横浜で第31回国際心理学会(ICP)が開催された(大会委員長・繁樹算男帝京大学教授)。日本では1972年に引き続いて2度目の開催である。

7/25、イタリアのセルジオ・サルバトーレ教授が企画した「Cultural differences and social development」においてコメンテーターを務めた。

7/26には、デンマークのヤーン・ヴァルシナー教授が企画した Thematic Session 「Development of qualitative psychology in Japan: What can we contribute to the world?」において、「Trajectory

Equifinality Approach (TEA)」について発表した（実は、どうしても抜けられない事情があり、関西大学・木戸彩恵准教授に代読してもらった）。



なお、時間は前後するが、ICPの直前7月22日（金）に立命館大学 OIC において【総合心理学部開設記念セミナー・文化心理学の新展開；デンマーク・オールボー大学ヴァルシナー教授を迎えて】が開催された。デンマーク・オールボー大学 Jaan Valsiner 教授やイタリア・サレント大学 Sergio Salvatore 教授を迎えての記念シンポジウムである（ちなみに両教授ともかつて立命館大学の特別招聘教授として大学院の授業を受け持ったことがあり、立命館大学への親近感も多大なものがある）。これに対して立命館大学総合心理学部は安田裕子准教授が司会を務め、サトウタツヤ教授（私です）が解説を行い、森岡正芳教授、齋藤清二教授がコメントをするという布陣。この他にも川野健治教授や衣笠総合研究機構のやまだようこ教授、政策科学部の稲葉光行教授、教育推進機構の山口洋典准教授が参加した。

懇親会は、佐藤隆夫学部長による挨拶で始まった。総合心理学部の1回生数名もシンポジウム・懇親会に参加してくれたことは特筆に値する。





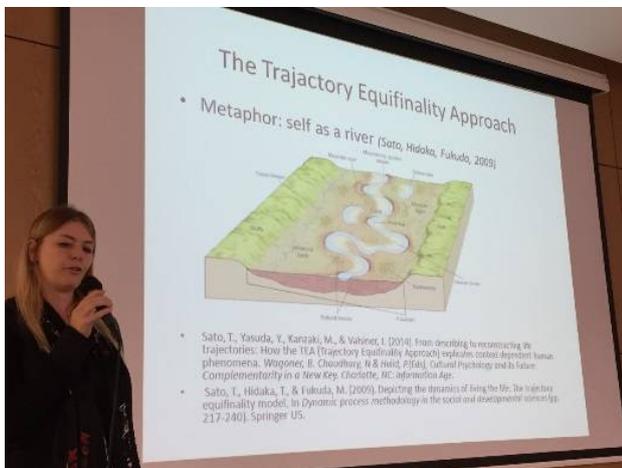
3 9月ポーランド・国際対話的自己学会

この国際学会は2年に1度開かれるもので、今回はポーランドで開催された。対話的自己理論の創始者であるハーマンズ先生がウェルカムスピーチをするのが一種の名物である。



さて、この学会では、招待シンポジウムを企画するという荣誉に恵まれた（単に名誉であるだけでなく、参加費も半額にディスカウントされている）。

このシンポジウムではアグニエスツカ・コノプカさんが独自の解釈で、川メタファーとしての TEA (複線径路等至性アプローチ) という説明をしてくれた。西洋の理論は一般に何かを積み上げていくようなものが多いが、コノプカさんは川メタファーでうまく TEA (複線径路等至性アプローチ) を説明してくれた。



さて、ポーランドの学会ということもあり、学会会場がある Lublin の近くのマイダネク収容所を訪ねることにした。第二次世界大戦時のドイツのユダヤ人収容所としては、アウシュビッツが有名だがマイダネクもなかなかの収容所であったようだ。



人類の負の遺産を身近に感じた私たちにできることは何なのか、色々と考えさせられた。

4 10月イタリア Idiographic Approach to Health

10月はナポリ。イタリア・サレント大学のセルジオ・サルバトーレ教授に誘われて「健康への個性記述的アプローチ」という研究集会に参加した。

「See Naples and Die(ナポリを見て死ぬ)」、という程の風光明媚な土地なのだが、天候に恵まれなかった。ゴシック様式の教会。



天井はこんな感じ。そしてピザ！でかい！



学会は University of Naples Federico II で行われた。歴史を感じさせる非常に重厚な大学であった。初日はあるセッションの司会と指定討論を任された。



二日目は講義室のようなところに場所を移し講演。私は研究発表をした。東京電力福島第一原発事故によって避難を余儀なくされた方の話を交えながら健康への個性記述的アプローチについて発表した。



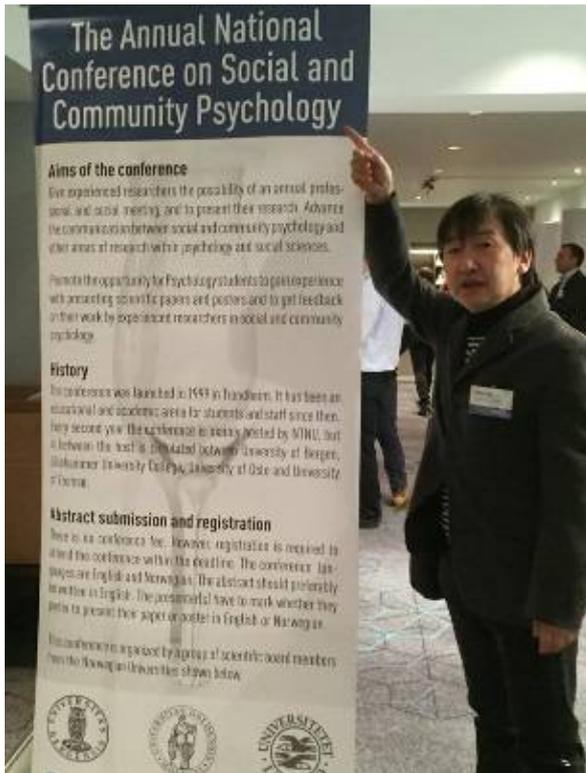
そして、その日はある教授のお宅でパーティ。



院生さん達（彼女達はほぼタバコを吸っていた）と一緒に記念写真。

5 11月ノルウェー 社会&コミュニティ学会

トロンハイムにあるノルウェー科学技術大学（Norwegian University of Science and Technology; NTNU）で行われた。トロンハイムはノルウェー中部に位置するノルウェー第3の都市で、ノルウェー王国最初の首都である。この学会は国内学会でありながら、様々な国の研究者が発表するし、学部生も発表したりする不思議な学会であった。私は記号と文化心理学について講演した。



初日の懇親会はピザパーティ。しかもアメリカンピザの店、そしてアルコール抜き！パレスチナからの研究者と知り合いになったのは、大きな出来事でした。



ロシアからの研究者たちとも仲良くなりました。ノルウェーの院生たちとも仲良くなりました。



口が油っぽすぎて、ワインでも飲まずにはいられない！ということでホテルに戻ってきてからロビーで二次会。ワインを一杯。私の対面にいる女性はコペンハーゲン大学准教授の村上享子さん。

二日目の夜は、Hroar・Klempe 教授のご自宅でホームパーティ。ノルウェーの伝統料理であるスープ料理一品というシンプルなパーティでしたが、ビールは沢山あり、大いに盛り上がりました。

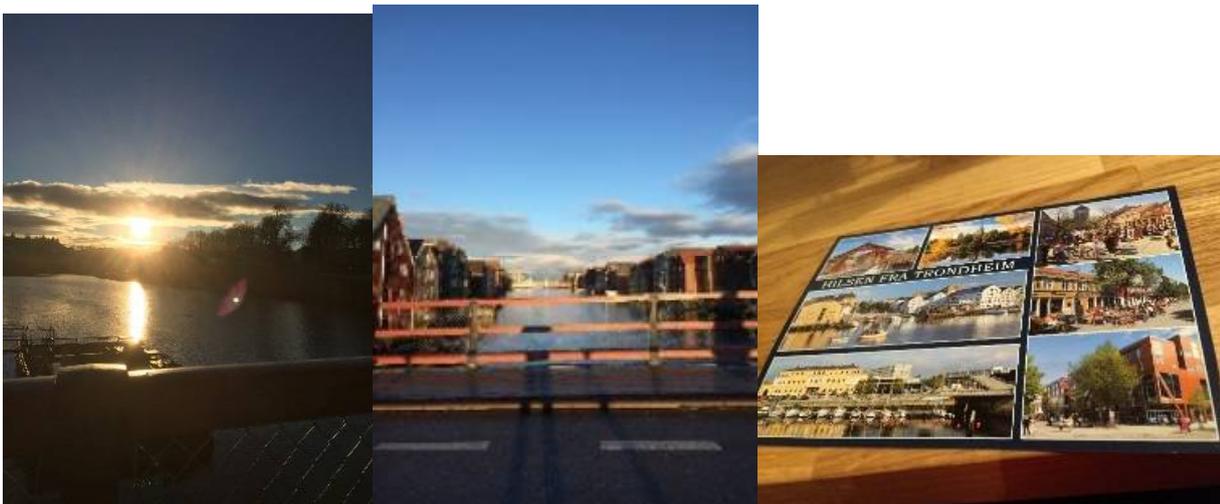


このパーティで、とある人と一緒にレジリエンスとは何か、ということについて考えました。メモの写真を載せておくと、この図のポイントはV字回復モデルでなくていいという点。そして、分岐点を設定することができれば他の事例における介入のモデルとなるだということである。今後考えていきたい点である。



最後に記念写真！

帰国の日、ちょっと周辺散歩。ノルウェーは緯度が高いので午後1時過ぎであるにもかかわらず、太陽はこれくらい低い。



6 まとめに代えて 文化的道具と記号

ノルウェーで見つけたこれは何？





卵立てなのである。私たちは私たちの周りの事物をそのものとして見るよりは記号を介して見ているものなのだ、というのが文化心理学の基本的考え方である。そしてこの考えは、ロシアの心理学者・ヴィゴツキーの考えに基礎を持っている。目の前の物質がどのような道具なのか、ということは記号の働きによるものであり、記号の働きを共有することが文化なのである。

7 蛇足

なお、2016年度の非常に大きな出来事として、TEA（複線径路等至性アプローチ）に関する英語の著書が刊行されたので紹介しておこう。

Sato, Mori and Valsiner (2016). *Making of the Future: The Trajectory Equifinality Approach in Cultural Psychology*. Information Age Publishing.

<http://www.infoagepub.com/products/Making-of-The-Future>

初めて TEA（複線径路等至性アプローチ）に関する研究を行ったのが 2014 年 1 月 25 日。

英語で本を出すようになるとは思ってもよらなかったが、心理学や人間科学の方法論に 1 つの可能性を提唱することができて、率直に嬉しく感じている。



この日のシンポジウムについては下記を参照されたい。

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/koho/headline/topics/2004/01/ningenkagaku.htm>

蛇足の蛇足ながら TEA のサイトもリニューアルされているので参照されたい。

<https://sites.google.com/site/kokorotem/whatistem>